

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	沼津センター ドルフィン		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日		～ 2024年 10月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2024年 10月 1日		～ 2024年 10月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 10月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分に理解し、こどもの特性に応じた専門性のある支援を行っている。 外出活動が充実 公園や海が近くにあり、身体を動かせる環境	一人ひとりの対応について日々フィードバックを行い、新たな対応を行った後の検証を行う等こどもの変化に柔軟に対応できるようにしている。	マンツーマン対応を行う機会や個別療育の機会を増やす。 こどもの希望やレベルに合わせたおもちゃづくり
2	事業所のプログラムが固定化されないよう工夫している。 言語、心理、保育士と様々な分野からの支援アプローチが出来る	季節を意識した活動プログラムとしている。 土曜プログラムに関しては実施する内容は固定とし、調理・運動・外食(買物体験)・外出(公共におけるマナー)を必ず一月に一回実施しスキルが定着できるようにしている。 個別・集団に分けての支援強化	職員が手伝うことがまだあるが、一人でできるように日々の活動の中で培えるように活動プログラムをより充実する。
3	こどもことを十分理解し、こどもと保護者のニーズが客観的に分析され個別支援計画が作成されている。	こどもや保護者と日々コミュニケーションをとり、ニーズの把握に努め、職員間で共通認識を図れるようにしている。	高等部・高校卒業時の地域期間連携の経験が少ないため、情報共有等交流を深めスムーズに移行が図れるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障害の特性によってバリアフリー化や情報伝達等環境上の配慮が適切になされていない。 海が近い為津波が心配	障害者に合わせた建築物ではないことが大きい要因。 階段も急だが、賃貸物件であるため改修が難しい。	車椅子に対応するのであれば、取り外し可能なスロープを用意する。
2	父母の会の活動を支援する・保護者同士で交流する機会を設けられていない。	駐車スペースに限りがあり、一度に保護者を招待することができない(3家族まで可)。 子どもを見る職員と家族に対応する職員と分けることが難しかった。	公共の施設を利用し多人数で対応できる場所で行う。 職員配置に余裕ができたため、子ども対応・保護者対応を行う職員に分け実施する。
3	生活空間は心地よく過ごせる環境となっていない。	エアコンが老朽化し夏場の暑さに対応できていない。 また建物が古いため断熱効果の高い構造となっていない。	新しいエアコンを購入し、断熱効果の高いものを設置する。